

## 木村さん

効果的な勉強方法などは、他の多くの方々がアドバイスされると思いますので、私は合格まで長い年月を要した者として、ご参考にならないと思いますが、特に2次試験の受験勉強を通じて感じたままを書かせていただきます。(むしろ私の様にならないでください。)

### ■プロフィール

- ・年齢 52歳(H26年2月で53歳になります。)
- ・勤務先、食品製造中小企業
- ・妻有、子供なし
- ・平成16年1月から、中小企業診断士の勉強を開始。2次試験合格まで丸10年を費やしてしまいました。
- ・受験学校は、MMCで2校目、MMCへは、H23年の2次対策講座から受講。
- ・1次試験6回受験 ⇒ 4回合格
- ・2次試験8回受験し、念願の合格。

### ■私の受験仲間に見る受験生の実際

5年ほど前から、2グループ、私も入れて、合計10名ほどの方とお付き合いをしております。はじめの2年程度は、頻りに勉強会等を開いていましたが、そのうち疎遠となり、現在では、たまにメールをやり取りしたり、飲み会をしたりする程度です。この10名の内、2次試験合格者は私を含め5名。ちょうど5年前から、1年に1名ずつ合格しています。私以外のほとんど全員の方が一流企業に勤務しておられ、本業も多忙な上、家庭も抱えておられることから、初めは受験学校に「通学」で受講されていた方も、何年か経つうちに、「通信」講座に切り替えたり、中には断念された方もおられました。

統計では、診断士の受験勉強を開始して、3年以内に合格する方が7割と聞いたことがあります。統計通りで行けば、私の仲間は既に全員合格していてもおかしくないと思います。しかし、実際には新たな受験生も加わり、受験生自体の新陳代謝があるため、やはり、取得するには厳しい資格だと思います。

### ■己を知り、敵を知れば、百戦危うからず(出題者や採点者は敵ではありませんが…)

私の1校目の受験学校では、今から考えると、己の技術のブラッシュアップばかりが中心で、2次試験「対策」講座というより、「実践コンサルティング」講座の性格が強かったと思います。(実際にその学校の講師から、似た様な発言がありました。)

しかし、そのような勉強は、合格してから行えばよいことです。2次試験では、出題者(又は採点者)側が実際にどのような問題を出題しているのか? どのような状況で採点しているか? を考えることが、ポイントになると思います。

その意味では、MMCの講座は正に的を得ていると思います。(宣伝ではありませんが…)出題者は、2次本試験の短い時間の中で、事例を分析し、より高度な理論を展開してほしいと考えているとは思えません。そんなことをしたら、採点者は、何年かかっても採点が終わらないと思います。

私のいい例が、何年か前の2次試験、生産・技術事例で、「かんばん方式」を想定し、解答を作成、これで合格しただろうとタカをくくっていたら、なんと評価は「D」でした。その時は、今まで何をしてきたのだろう？というショックに加え、これから何を勉強すればいいのか解らず、頭の中が真っ白になった記憶があります。我ながら最低ですね。

MMCで言う、①題意に忠実に、②因果で書く、③多面的な切り口で、④キーワードで書く、に対して、自身であらかじめ用意して絞り込んだ解答を、解りやすい言葉で当てはめていく「作業」を行っていただけだと思います。

「敵を知る」つまり、出題者や採点者の視点に立って考えないと、ただひたすら「自分を責め続けるジレンマ」に陥ってしまい、ここから抜け出すには、大変な苦勞が必要になると思います。こうなると最悪です。

### ■MMC + 過去問の自分の勉強方法・解き方

とはいっても、簡単ではないのが本試験。これはあくまでも私見ですが、自動車免許に例えると、MMCの答練の事例問題は教習所内のコースで、2次本試験は、路上教習みたいなものだと思います。やはり路上に出ると、速度は速いし、いきなり割り込まれたり、何が起こるか分からないのが実際でしょう。解っておられるとは思いますが、この答練と本試験の「感覚」の違いはハッキリと持っておくべきだと思います。

合格された方(MMCの受講生を含め)は、異口同音に「答えは過去問にあり」と言っていました。しかし、だからと言ってひたすら過去問を何度も繰り返して解いていたわけではないようです。合格された方々は、皆さん独自の方法で分析したり、学習したりしていました。MMCに限らず、受験学校から与えられる講座の内容をしっかりとやる一方で、過去問に対する自分独自の勉強や、理解が必要かと思えます。何度も言いますが、むやみに過去問を解くものではありません。私もそれをやって、MMCのやり方を崩してしまったことが何度もありました。

私の場合は過去問に対しては2つ。①頻出の問題点について、問われそうな内容や、解答を用意し、覚える。(例えば、組織・人事事例は、成果主義やモラルに関する周辺の知識など) ②過去問の設問と事例文から、本番と同様の解答メモまでを作成する作業の訓練をする。(解答用紙に書く手前までの作業。)この方法が良いかどうかはわかりませんが、ご参考まで。

### ■日頃から集中力の維持が大切

MMCでは、本試験当日に会場で受験仲間と会っても、集中力維持のために、絶対会話をしないよう薦めています。私と受験仲間との間でも、本試験当日だけでなく、受験校が実施する模擬試験の時も、会場で仲間と会ったら「黙礼」のみと決めていました。

私は、合否の最後に分かれ目は、この集中力だと思っています。どんな状況に陥っても最後まであきらめず、冷静に設問に取り組む姿勢を維持する。どんな設問が出されようとも、周囲にどんな変な人物が座ろうとも大丈夫なように、自分自身が出来る、可能な限りの対策をしておくことで、集中力を維持する。

くだらないと思われる方もいると思いますが、試験当日や日頃から、私はこんなことをしていました。

- ・電卓、マーカーなどは同じものを2セット、腕時計も2個持っていく。
- ・下痢止め、頭痛薬、胃腸薬、バンドエイドなどを少しずつ持っていく。
- ・ポケットティッシュやウエットティッシュを多めに持っていく。

- ・昼食は、外では食べず、コンビニのもので、いつも同じようなものを用意する。
- ・本試験会場の開場時間の1時間30分前には、付近のファミリーレストランで朝食を取り、過去問などを眺めながら集中力を高める一方、トイレなどを済ましておく。
- ・本試験当日1週間前には、当日の朝と同じ行動を取り、電車の込み具合から、コンビニなど付近の状況まで、確認しておく。

挙げたらきりがありませんが、私はこう考えていました。「どうせ会場に行けば、自分の集中力を途切れさせてくれる様々なことが起こるだろう。であれば、せめて自分自身は何が起こっても冷静でいられる準備はしておこう。」と…

本試験当日だけでなく、日頃からこのようなことを心掛けていると、事例に取り組む時は、かなり冷静に、淡々と「機械」のように作業をしている自分に気づきます。ただ、気持ちだけは「絶対に最後まで書き切る」ことに集中していました。昔、先輩から言われた言葉を思い出します。「Cool Head and Warm Heart(冷静さと情熱を同時に持つ。HeartはHotでも、Heatでもありません。あくまでもWarmです。)

### ■自分に言い聞かせた言葉

最後に、自分に言い聞かせてきた言葉2つをお送りします。

「努力は嘘をつかない。」

「試験に合格した人は、彼が優秀な人間だったから合格したのでない。ただ、合格するまであきらめなかっただけである。」